

# C型肝炎の最新治療

**Q C型肝炎の治療は変わりましたか？**

最近大きく変わりました。1990年にC型肝炎ウイルスが発見されてから2000年までは、インターフェロンの単独治療（注射）が行われました。治療効果は治療率30〜40%で、発熱、全身倦怠、食欲不振などの副作用が強く、途中で治療を止める方も見られました。2000年になりインターフェロンにリビリン内服を併用するようになり、治療率は50〜60%に上昇しましたが、副作用はさらに強くなりました。2010年になり、直接作用型抗ウイルス薬（内服薬）が発売され、こ

れとインターフェロン及びリビリン併用により治療率は70〜80%まで上昇しましたが、副作用は強いままでした。そして2014年9月にインターフェロンは使用せず、2種類の直接作用型抗ウイルス薬内服のみの治療が始まりました。これにより治療率は90%となり、しかも副作用は軽度の肝障害のみとなり、高齢の方でも治療が可能となりました。しかしこの治療では、変異が起きたウイルスでは効果が低いこと、薬の内服期間が24週間と長いことが問題でした。2015年9月に発売されたハーボニーと11月に発売されたヴェキラックスは第2世代の直

接作用型抗ウイルス薬で、治療効果がさらに良くなっています。

**Q ウイルスのタイプによって使う薬が違うのですか？**

日本のC型肝炎ウイルスには1型と2型があり、約75%は1型です。現在の薬は、ウイルスのタイプで使い分けをします。1型にはハーボニーまたはヴェキラックスを、2型にはソバルディ及びリビリンを12週間内服して頂きます。内服薬だけの治療で、注射はありません。

**Q 新しい薬の副作用を教えてください。**

インターフェロンを使わない

治療となり、副作用は大変少なくなりました。ハーボニーとヴェキラックスは、副作用がほとんどありません。ソバルディ及びリビリンは貧血が進行することがありますので、血液検査を行い薬の量を調節する必要があります。いずれの薬も日常生活には影響がなく、仕事も通常通り行うことができます。

**Q 新しい薬はどれくらいの効果があるのですか？**

いずれの薬もおよそ95%の方でウイルスが消失します。残念ながらおおよそ5%の方ではウイルスを消すことができません。また腎機能が悪い方は飲めない薬があります。

**Q 新しい薬の注意点を教えてください。**

ハーボニーは、胃薬を飲んでいる場合効果が悪くなることがあるため、朝食前に同時に飲むなどの注意が必要です。ヴェキラックスは、カルシウム拮抗薬という降圧剤を飲んでいる場合、血圧が下がり過ぎたりむくみが現れたりすることがあります。リビリンは、貧血が進行することがありますので、血液検査

で確認しながら治療を進める必要があります。いずれの薬にも併用禁止薬がありますので、医師、薬剤師とよく相談してください。

**Q 高価な薬と効きましたが、費用はどれくらいかかるのでしょうか？**

新しい薬にも、インターフェロンと同様に医療費の助成制度があります。市町村民税課税年額に応じて、1カ月の自己負担限度額が1〜2万となり、この3カ月分が自己負担額となります。

**Q 現在の薬で治らない場合はどうすればいいのですか？**

現在開発が進んでいる治療薬は、全てのタイプのウイルスに有効で、8週間内服すればほぼ全ての方のウイルスが消失する薬です。腎機能が悪い方も内服していただけます。この薬が発売されるまで約2年かかりますので、従来の注射や内服薬で出来る限り肝機能を良くしてお待ちください。

**Q C型肝炎が治った後は何もしなくてもいいのですか？**

C型肝炎ウイルスが消えた後、

脂肪肝やアルコール等の問題がなければ肝機能は必ず良くなります。しかし、C型肝炎は腫瘍が出やすい肝炎で、ウイルスが消失した後も稀に肝臓がんが出てくる場合があります。自覚症状はありませんので、治療終了後少なくとも10年間は年に2回の超音波検査を受けられる事をお勧めします。

## 今月の先生



岐阜市民病院 消化器内科  
**西垣洋一** 先生

- 専門分野 肝がんの早期発見と経皮的治療
- 役職 肝臓内科部長  
消化器内科部副部長
- 主な資格、認定 日本肝臓学会指導医・専門医  
日本消化器病学会指導医・専門医
- 日本超音波医学会指導医・専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本内科学会認定内科医
- 卒業年 昭和62年岐阜大学医学部卒